

2018.10.23

インドネシア・スラウェシ島地震 現地報告 第2報

(紙資料修復家・坂本勇氏より)

(編集：NPO法人書物の歴史と保存修復に関する研究会)

◆10月19日（金）

午前5時 滞在していたスラウェシ島・パル（Palu）の高台Pengawu村
を出発し、ジャカルタへ空路移動

14時～16時 地元新聞の取材対応
州立博物館の落下破損陶磁器を回収するためのプラスチック
ボックス手配準備

19時～21時 現地協力機関の幹部と現地報告ミーティング

◆10月20日（土）

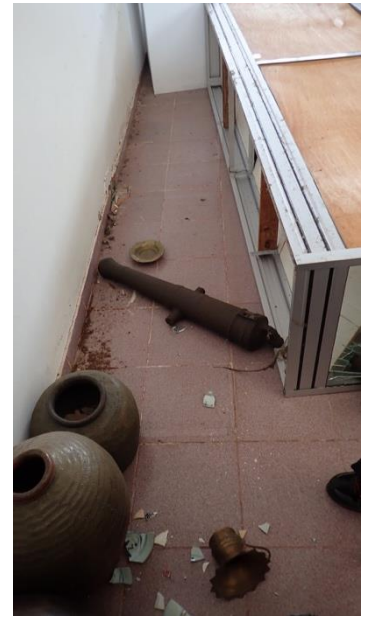
夕方～翌朝 現地画像の確認とバックアップ作業

◆10月21日（日）

午後より 外部へ向けてメール対応など情報発信
マカサールの支援者と交信

坂本氏からの報告によると、被災地では緊迫した状況の中、過去に経験したことのない状態に陥っており、未だ具体的な支援が進んでいない様子が伺えます。坂本氏ご自身についても、現地では1週間近くシャワーを浴びることができず、十分に休む間もない中、活動されているとのことでした。

《現地での被害状況・支援の様子》



(写真上段：左・中・右)、(写真中段：左) = 陶磁器コレクションの被害状況

(写真中段：右) = exhibition building の倒壊状況

(写真下段：左) = 日本からの救援物資、(写真下段：右) 坂本氏とミュージアムスタッフ

インドネシア州立博物館 (パル市内)